

令和2年8月1日

写) 販売店 各位

需要家各位

三多摩生コンクリート協同組合



暑中期における生コンクリートの納入について

拝啓 貴社ますますご清栄のことと喜び申し上げます。
平素は弊協組活動にご理解ご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

近年全国的に夏期の外気温が高くなっており、暑中期に納入するコンクリート荷卸し時のコンクリート温度が35℃を超えるケースが顕在化し、返品される事例報告を受けております。弊協組内工場においても、暑中期において製造時のコンクリート温度が35℃近くになることが見受けられるようになってきております。

暑中コンクリート工事あたっては、(一社)日本建築学会2019年に「暑中コンクリート施工指針・同解説」では、受入れ時のコンクリート温度の上限値を38℃とする場合には、コンクリートの性能が低下しないような適切な対策を採り、試し練りにより性能を確認する。と明記されております。JIS認証機関では、レディーミクストコンクリートJISの工場社内規格において、コンクリート温度の基準を「38℃以下」とすることを認めています。

JIS認証機関の動きを受けて弊協組組合員は、ほとんどの工場で社内規格改定を終えており、荷卸し時のコンクリート温度が35℃以上であっても38℃以下であれば規格上問題のない体制を整えています。しかし、納入現場で受け入れ基準を「35℃以下」とされている場合、工場はJIS製品として問題のない生コンクリートを出荷しても、現場の基準によって受入れを拒否されることとなります。このような状況では、現場にご迷惑をおかけする事態の発生が懸念されることから、工場は生コンクリートの納入を辞退させていただくことがあることをご承知おきください。

需要家の皆様には事情をご賢察頂きましてコンクリート温度が35℃を超えた場合の対応について販売店ご担当者様とご相談いただきご指示をお願い申し上げます。

今後、ますます夏期コンクリート温度が高くなる傾向であることから、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

敬具